

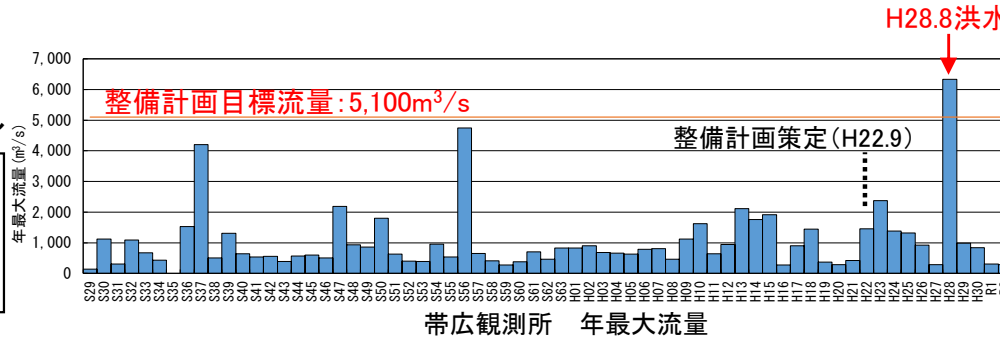
十勝川水系河川整備計画[変更]【大臣管理区間】概要（変更の背景）

・平成22年9月（平成25年6月変更）に策定した十勝川水系河川整備計画について、以下の点から見直しを行い、令和5年3月に変更しました。

背景① 平成28年8月洪水の発生、気候変動の影響に対応した河川整備（既存ダムの有効活用等）

～現行整備計画目標流量を上回る洪水の発生～

・平成22年策定の現行整備計画の目標流量を上回る洪水が平成28年8月に発生し、流域全体で甚大な被害が発生しました。



<平成28年8月洪水被害状況>



～将来の気候変動に伴う降雨量増大を考慮した河川整備計画の見直し～

<地域区分毎の降雨量変化倍率>

気候変動を踏まえた治水計画のあり方 提言 改訂版(令和3年4月)より

・気候変動の影響により、2050年頃には各シナリオとも気温が2°C程度上昇することが予測されています。

・北海道では2°C上昇時に降雨量が1.15倍になることが試算されています。

地域区分	2°C上昇	4°C上昇	
		短時間	
北海道北部、北海道南部	1.15	1.4	1.5
九州北西部	1.1	1.4	1.5
その他(沖縄含む)地域	1.1	1.2	1.3

背景② 流域治水への転換を踏まえた治水対策

～ハード対策のみならず、ソフト対策や流域対策など、あらゆる関係者により流域全体で行う治水「流域治水」へ転換～

流域治水の3つの柱

- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
- 被害対象を減少させるための対策
- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策



背景③ 最新の動向や答申等による見直し

十勝川水系河川整備計画[変更]【大臣管理区間】概要①

背景① 平成28年8月洪水の発生、気候変動の影響に対応した河川整備(既存ダムの有効活用等)



目標流量の設定【P77】

- 北海道は気候変動による影響が大きく、これに伴う降雨量増大が懸念される。気候変動の影響を踏まえた新たな目標流量の設定を行った。

- 河川整備計画においては、既往最大洪水の平成28年(2016年)8月洪水を安全に流下させることに加え気候変動後(2°C上昇時)の状況においても、前河川整備計画(平成25年(2013年)6月変更)での目標と同程度の治水安全度を概ね確保できる流量を安全に流下させることを目標とする。

- 目標流量については、十勝川の帯広地点で6,700m³/s、茂岩地点で14,100m³/sとする。ダム再生を含めた既存ダムの有効活用等により洪水を調節して、河道への配分流量を十勝川の帯広地点で5,900m³/s、茂岩地点で12,600m³/s、音更川の音更地点において1,600m³/s、札内川において2,400m³/s、利別川において4,000m³/s、浦幌十勝川の十勝太地点で1,600m³/sとする。

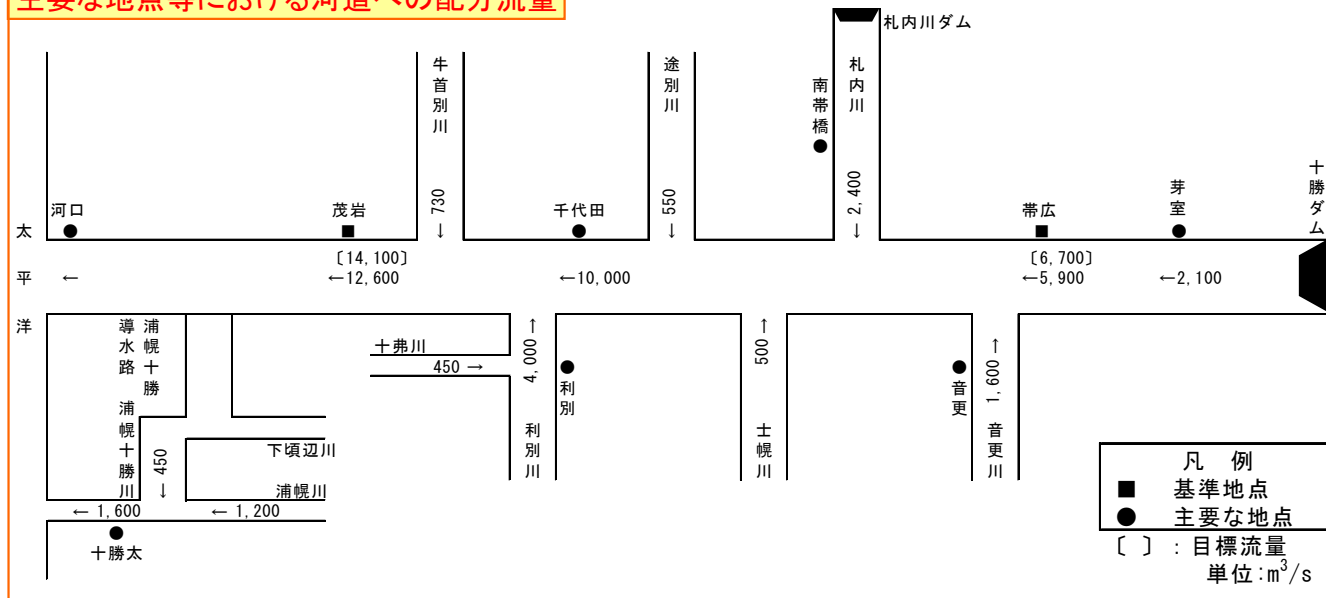
河川整備計画目標流量(現行)

基準地点名	目標流量	河道への配分流量
帯広	5,100m ³ /s	4,300m ³ /s
茂岩	11,100m ³ /s	10,300m ³ /s

河川整備計画目標流量(変更)

基準地点名	目標流量	河道への配分流量
帯広	6,700m ³ /s	5,900m ³ /s
茂岩	14,100m ³ /s	12,600m ³ /s

主要な地点等における河道への配分流量



十勝川水系河川整備計画[変更]【大臣管理区間】概要②

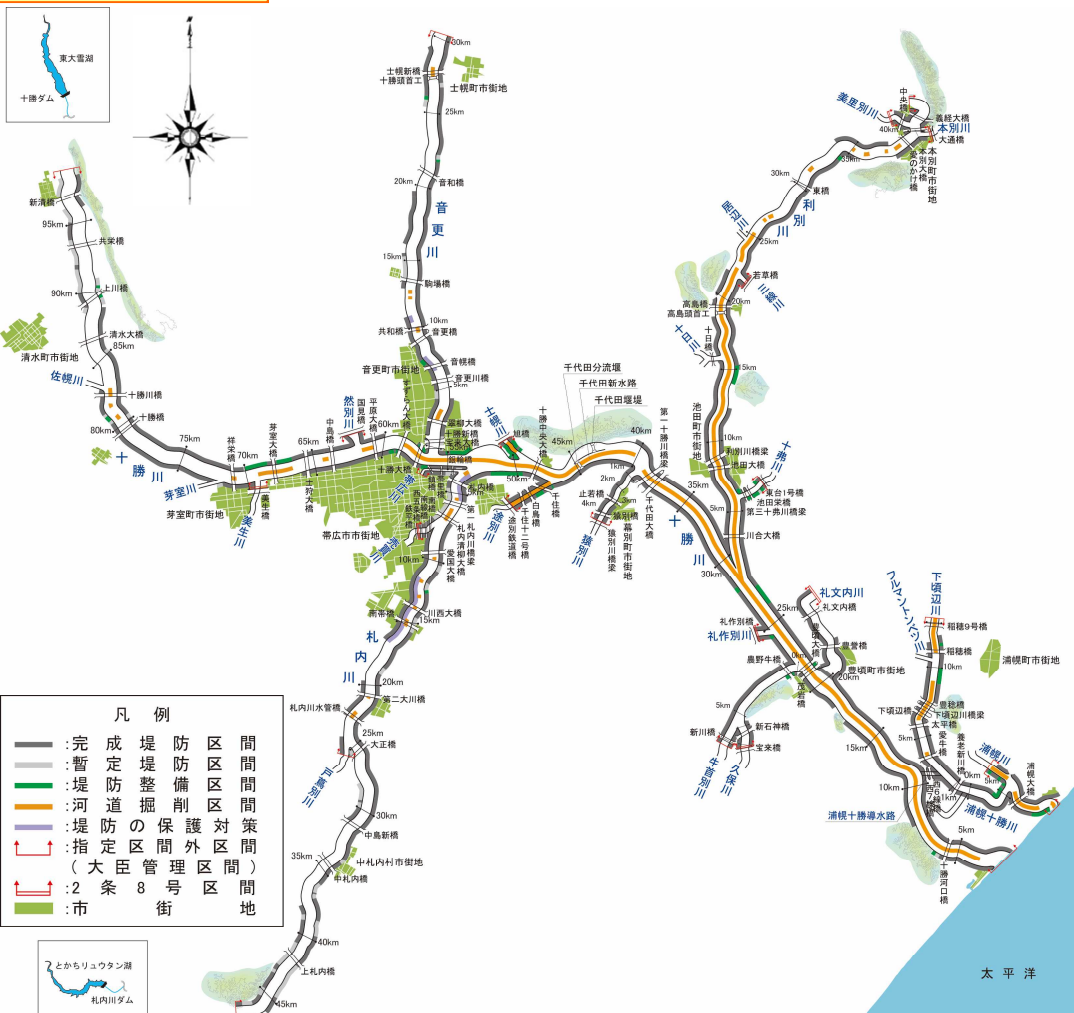
背景① 平成28年8月洪水の発生、気候変動の影響に対応した河川整備(既存ダムの有効活用等)



治水対策の設定【P81～99】

- 目標流量の増加に対し、河道掘削に加え洪水時の流量を調節するための対策等、必要な対策を講じる。なお、河道断面・堤防断面が不足している区間については、河道の安定、社会的影響、河川環境、今後の維持管理等に配慮しながら、堤防の整備や河道の掘削により必要な河道断面を確保する。

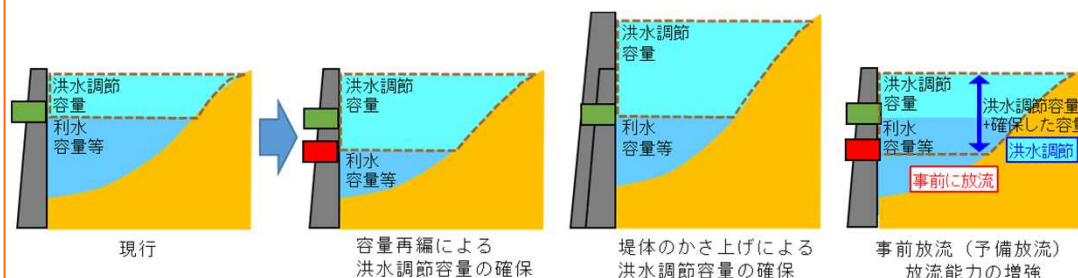
整備メニュー位置図



堤防の整備、河道の掘削等を実施する区間

洪水時の流量を調節するための対策

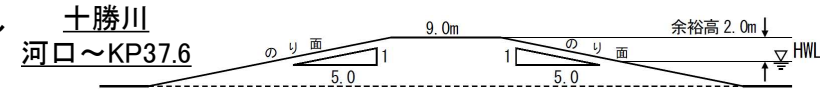
ダム嵩上げによる新たな洪水調節機能確保、治水・利水容量の見直し、放流能力増強や操作方法見直し等、施設管理者等と協議・連携の上、必要な対策を講じる



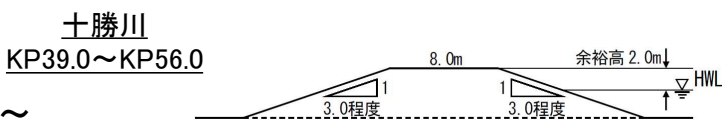
(参考) 既存ダムの有効活用

洪水を安全に流下させるための対策

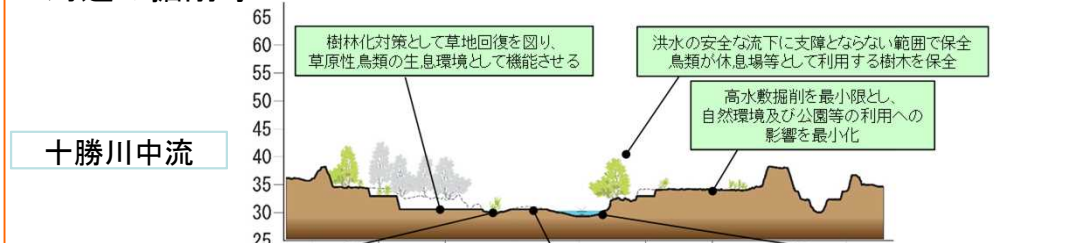
～堤防の整備～



～河道の掘削等～



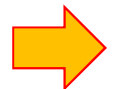
十勝川中流



平水位程度での掘削により、渡り鳥の生息環境となるフンド・たまりを保全
掘削方法の工夫(傾斜掘削等)により、時間経過すると自然河岸に近づき、複雑な水際が創出されることを期待。
平水位程度での掘削により、サケの遡上環境となる現況の滞筋、瀬・淵環境を保全

十勝川水系河川整備計画[変更]【大臣管理区間】概要③

背景② 流域治水への転換を踏まえた治水対策



流域における対策(流域治水の取組推進)【P101】

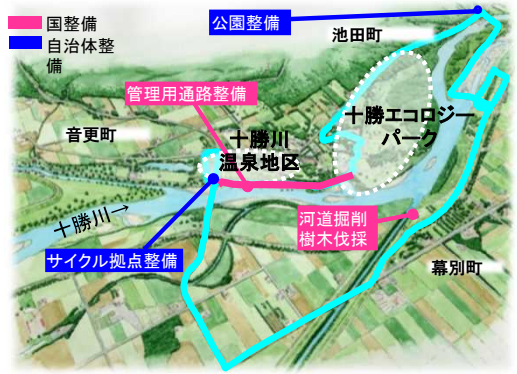
- 気候変動による水災害リスクの増大に備えるためには、これまでの河川管理者等の取組だけではなく、集水域から氾濫域にわたる流域に関わるあらゆる関係者と協働して「流域治水対策」を推進する必要がある。
- 「氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策」として、既存ダムの有効活用及び河道の整備を進める。また、治山対策や砂防関連施設等の整備等を推進するほか、利水ダム等における事前放流の実施、体制を構築する。
- 「被害の軽減、早期復旧・復興のための対策」として、施設の能力を上回る洪水等が発生した場合を想定し、水害リスクの高い区域等においては、備蓄資材庫の整備やコミュニティタイムライン及びマイ・タイムラインの普及促進、防災情報の提供を含む避難のための支援等をあらゆる関係者と連携して一体的・計画的に推進する。

流域治水の3つの柱

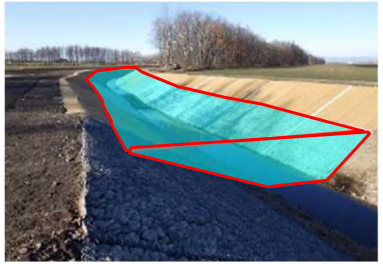
- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
- 被害対象を減少させるための対策
- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

河道掘削の土砂を利活用し、点在する観光施設周辺を整備することにより賑わいのある河川空間を創出し、観光進行の促進を図る。

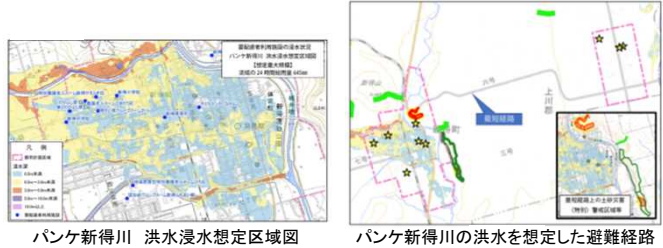


■ 既存農業施設の貯留活用(豊頃町)

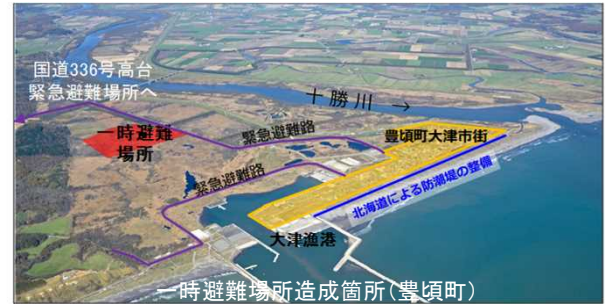


■ 被害対象を減少させるための対策

■ 立地適正化計画における防災指針の作成(新得町)
新得町は、市街地内に複数の河川が流れていることから、今後においても洪水浸水などの災害リスクを完全に避けることはできないため、防災まちづくりの取組方針を「災害リスクを一定程度受容したまちづくり」として災害リスクの回避と災害リスクの低減に取り組んでいる。



■ 一時避難場所の造成(豊頃町)
自治体の一時避難場所の基盤盛土等に河道掘削土を活用。



■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

■ まるごとまちごとハザードマップ整備促進(池田町)
池田町では、町民の水害に対する危機管理意識向上のため、まるごとまちごとハザードマップの一環として、浸水想定区域内の公共施設等に想定浸水深を示す標識を設置している。



設置事例(コミュニティセンター)

十勝川水系河川整備計画[変更]【大臣管理区間】概要④

グリーンインフラの取組推進、生態系ネットワークの形成、DXの推進、カーボンニュートラルに向けた取組など【P72、73、79、114、134】

背景③ 最新の動向や答申等による見直し

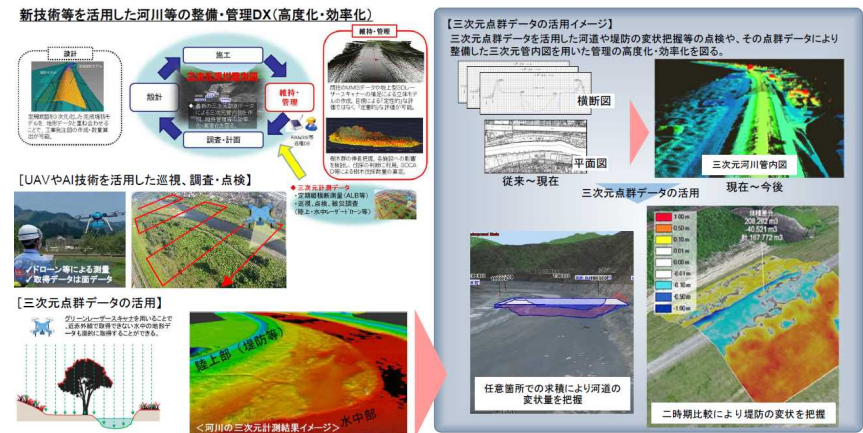
グリーンインフラの推進

良好な流域の環境や河川環境の保全を目指し、自然環境が有する多様な機能(生物の生息の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等)を活用し、持続可能で魅力がある地域づくりを進める、グリーンインフラに関する取組を推進する。



デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進

インフラ分野における効率性や迅速化については、デジタル・トランスフォーメーション(DX)を推進し、適切な維持管理や河川工事の実施につなげる。



生態系ネットワークの形成

自然環境の保全や創出、背後地との連続性の確保、かわまちづくり等と連携した地域経済の活性化や賑わいを創出し、あらゆる関係者と連携し、生態系ネットワークの形成を図る。



※生態系ネットワーク

生物多様性が保たれた国土を実現するために、保全すべき自然環境や優れた自然条件を有している地域を核として、これらを有機的につなぐ取組。

出典:「川からはじまる川から広がる魅力ある地域づくり」
国土交通省水管理・国土保全局 河川環境課

生態系ネットワークのイメージ

カーボンニュートラルに向けた取組

2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「2050年カーボンニュートラル」の取組を行い、関係機関と連携して「ゼロカーボン北海道」の実現を目指す。樹木の伐採にあたっては、公募伐採や自治体、民間事業者及び地域住民等と連携・協力することにより、チップ化しバイオマス発電燃料等として有効活用を図る等、コスト縮減に努めるとともに、気候変動の緩和方策の推進に努める。



樹木伐採



伐採した樹木のチップ化